

CAT2020と目録業務の今後について

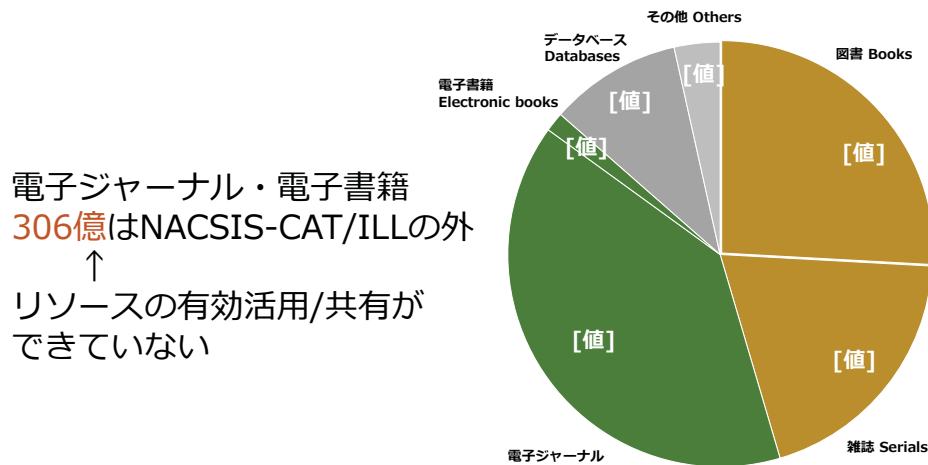
2017年11月17日（金）神戸市看護大学

NACSIS-CAT検討作業部会 委員
横浜国立大学附属図書館
藤井 眞樹

目次

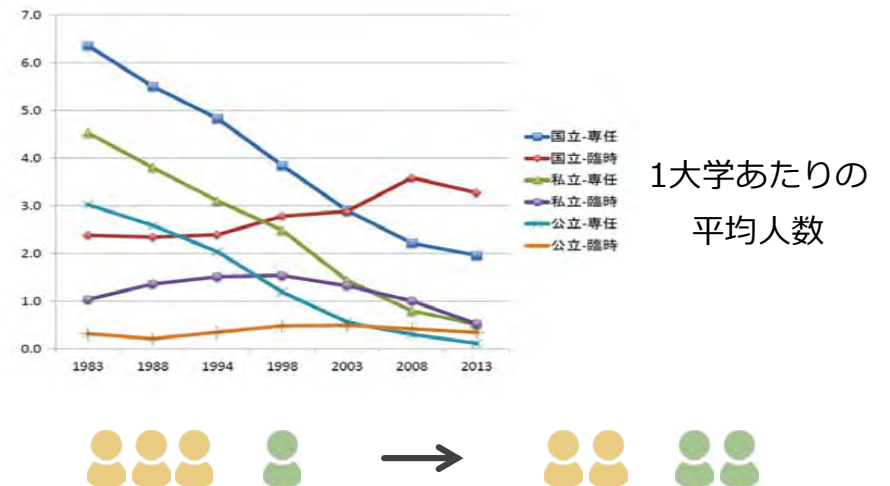
1. はじめに
2. NACSIS-CAT検討作業部会とは
 - 1) 概要
 - 2) これからの学術情報システムの方向と課題
 - 3) 課題
3. NACSIS-CAT/ILL再構築の必要性
 - 1) なぜ再構築が必要なのか？
 - 2) 外部データベースとの相互運用性を強化
 - 3) 電子情報資源への適切な対応のための資源（人的資源、システム資源、経費を含む）の確保
 - 4) NACSIS-ILLを含む「書誌利用（検索）機能」の強化
 - 5) 図書館システムへの影響と対応
4. 今後に向けて

電子資料の普及



平成28年度学術情報基盤実態調査より作成
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/Xlsdl.do?sinfid=000031556945>

大学図書館における目録担当者数の推移



NACSIS-CATの現状

書誌・所蔵件数

種類		件数
図書	書誌	11,802,467
	所蔵	132,205,369
雑誌	書誌	345,264
	所蔵	4,667,252

接続機関数

機関種別	機関数
国立大学	86
公立大学	88
私立大学	575
短期大学	122
高等専門学校	55
大学共同利用機関	14
海外機関	140
その他	241
合計	1321

2017年3月現在
<https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/stats/cat/>

NACSIS-CAT関連年表①

年月	出来事
1980.1	学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」
1985.4	目録所在情報サービス (NACSIS-CAT) 運用開始
1986.4	学術情報センター (National Center for Science Information Systems) 発足
1989.4	NACSIS-IRで図書目録情報を公開
1992.4	NACSIS-ILL運用開始
1997.11	新CAT (= 現行のCAT) 開始
1998.1	Webcatサービス開始
2000.4	国立情報学研究所に改組 (学術情報センターの配置、転換)
2004.9	書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト 発足
2004.12	旧CAT終了
2005.10	書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト最終報告
2007.7	図書館連携作業部会および次世代目録ワーキング 発足
2009.3	次世代目録所在情報サービスの在り方について 最終報告
2010.1-3	TRCMARCからの事前登録書誌の試行

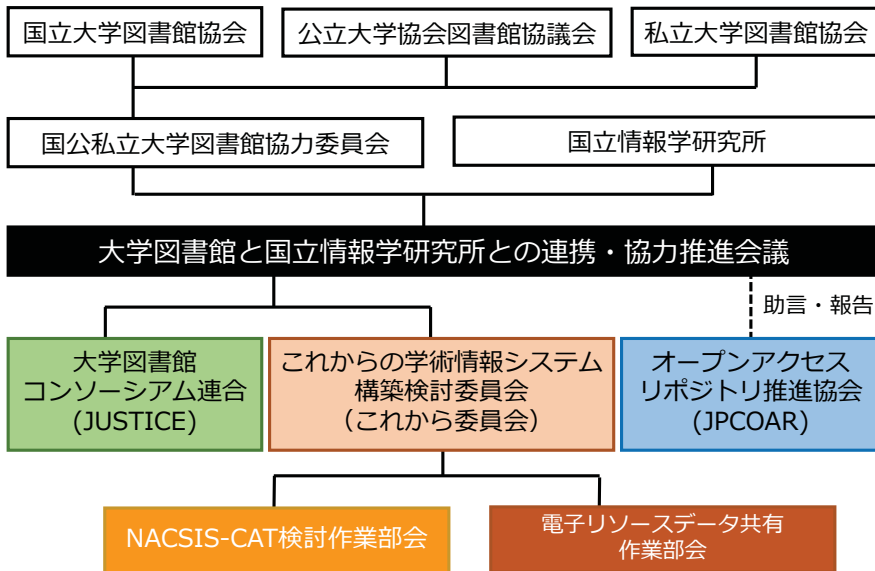
NACSIS-CAT関連年表②

年月	出来事
2010.10	国立情報学研究所と国公立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する協定書 締結 (→ 連携・協力推進会議の設置)
2011.3-6	参加館状況調査アンケート実施
2011.11	CiNii Books 公開
2012.6	これからの学術情報システム構築検討委員会 設置
2013.3	Webcatサービス終了
2015.7	NACSIS-CAT検討作業部会 設置
2016.8	「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について (基本方針)」公開
2017.3	「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について (実施方針)」公開
2020

目次

1. はじめに
2. NACSIS-CAT検討作業部会とは
 - 1) 概要
 - 2) これからの学術情報システムの方向と課題
 - 3) 課題
3. NACSIS-CAT/ILL再構築の必要性
 - 1) なぜ再構築が必要なのか？
 - 2) 外部データベースとの相互運用性を強化
 - 3) 電子情報資源への適切な対応のための資源 (人的資源, システム資源, 経費を含む) の確保
 - 4) NACSIS-ILLを含む「書誌利用 (検索) 機能」の強化
 - 5) 図書館システムへの影響と対応
4. 今後に向けて

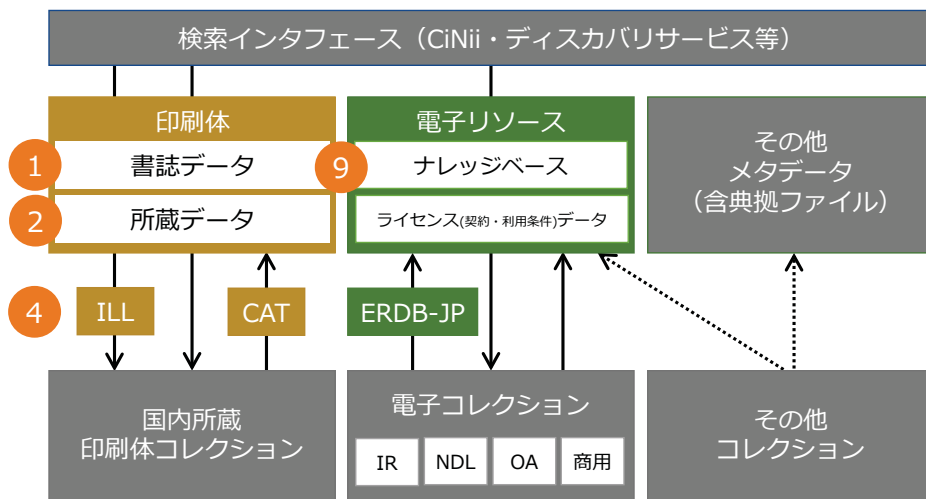
位置づけ



概要

- これからの学術情報システム構築検討委員会が活動目的とする「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」のうち、特にNACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化に関する企画・立案を目的として平成27年7月に設置された作業部会です
- 2017年度は筑波大学、東北大学、東京大学、東京外国語大学、横浜国立大学、京都大学、徳島大学、天使大学の委員によって構成されています

これからの学術情報システムの方向と課題



CAT2020のポイント



課題

(1)統合的発見環境の提供

- NACSIS-CATの位置付け
 - ①共同分担目録：書誌データの利活用への参加／不参加
 - ②資源共有：所蔵データの利活用への参加／不参加
 - ③共同保存・利用（Shared Print）
- NACSIS-ILLの位置付け
 - ④紙から電子への移行
- 国内コンテンツのメタデータの捕捉
 - ⑤ERDB-JPの整備・運用
- 商用コンテンツのライセンスデータの管理・共有
 - ⑥JUSTICEとの連携

課題

(1)統合的発見環境の提供

- 検索インタフェースの拡張
 - ⑦CiNiiはどこまでを対象とするのか
 - ⑧API公開

課題

(2)メタデータの標準化

- 相互利用
 - ⑨メタデータのオープン化

(3)学術情報資源の確保

- デジタイズ
 - ⑩印刷体資料の電子化
 - ⑪電子コレクションのアーカイブ対応

(4)その他

- 協力体制
 - ⑫大学図書館、NII、NDL
- ⑬ログデータの活用

目次

1. はじめに
2. NACSIS-CAT検討作業部会とは
 - 1) 概要
 - 2) これからの学術情報システムの方向と課題
 - 3) 課題
3. NACSIS-CAT/ILL再構築の必要性
 - 1) なぜ再構築が必要なのか？
 - 2) 外部データベースとの相互運用性を強化
 - 3) 電子情報資源への適切な対応のための資源（人的資源、システム資源、経費を含む）の確保
 - 4) NACSIS-ILLを含む「書誌利用（検索）機能」の強化
 - 5) 図書館システムへの影響と対応
4. 今後に向けて

なぜ再構築が必要なのか？

- 外部サービスとの相互運用性の強化
→「共同分担目録」と「資源共有」の在り方の再考も含めた、NACSIS-CAT/ILLの価値の向上
- 電子情報資源への適切な対応のための資源（人的資源，システム資源，経費を含む）の確保
- NACSIS-ILLを含む「書誌利用（検索）機能」の強化

目次

1. はじめに
2. NACSIS-CAT検討作業部会とは
 - 1) 概要
 - 2) これからの学術情報システムの方向と課題
 - 3) 課題
3. NACSIS-CAT/ILL再構築の必要性
 - 1) なぜ再構築が必要なのか？
 - 2) 外部データベースとの相互運用性を強化
 - 3) 電子情報資源への適切な対応のための資源（人的資源，システム資源，経費を含む）の確保
 - 4) NACSIS-ILLを含む「書誌利用（検索）機能」の強化
 - 5) 図書館システムへの影響と対応
4. 今後に向けて

外部データベースとの相互運用性を強化

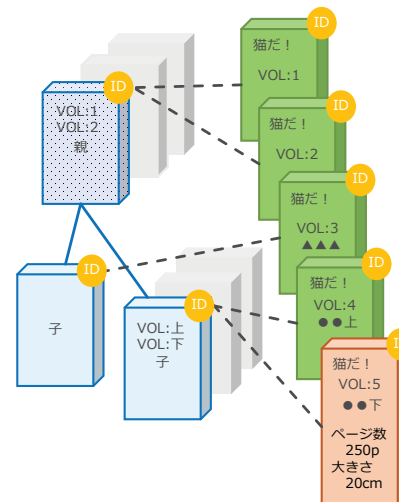
↓ 作業軽減
↑ 価値向上

= NACSIS-CATの価値を向上させるということ

1. 出版物理単位での書誌作成
2. 書誌構造リンクの見直し

出版物理単位での書誌作成

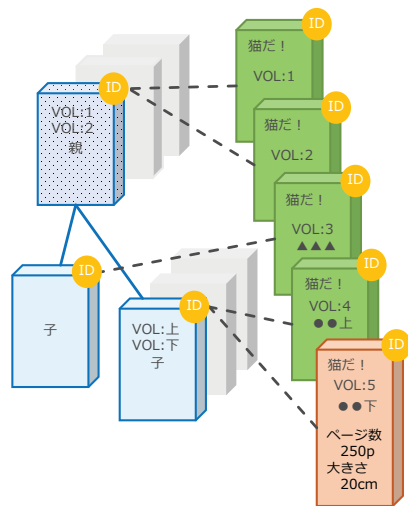
↓ 作業軽減
↑ 価値向上



- 新基準適用後に作成する書誌データ
 - 出版物理単位を原則として、VOLグループの繰り返しを禁止
 - 和漢古書など一部の書誌データは例外的に許可
- 現行基準で作成済みの書誌データ
 - 適及的な出版物理単位への分割は実施しない
 - 既存書誌データへのVOLグループの追加を禁止
 - 和漢古書など一部の書誌データは例外的に許可
 - 新基準適用後も既存書誌データの所蔵登録は可能

書誌構造リンクの見直し

↓ 作業軽減
↑ 価値向上



- 書誌構造リンク形成作業の任意化
 - 従来の親書誌データに相当するタイトル及び責任表示、親書誌データに対する番号等、中位の書誌単位のタイトル及び責任表示、構造の種類等を書誌データに記述
 - 親書誌データの新規作成及びリンク形成作業は現行の必須レベルから任意レベルに変更
- 書誌構造リンク形成機能の維持
 - 現行の検索環境を保証するため、手動によるリンク形成機能を提供

出版物理単位ごとの情報提供が可能に

IDによるデータ連携

↓ 作業軽減
↑ 価値向上

NACSIS-CAT/ILL

NCID	タイトル	ISSN
AA12687814	国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan)年報	2188823X

ISSN日本センター

ISSN	タイトル	印刷物等のISSN
2188-8248	国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan)年報	2188-823X

ERDB-JP

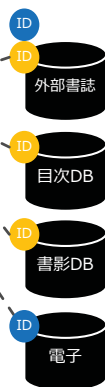
ID	タイトル	eISSN	タイトルレベルURL
11826	国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan)年報	2188-8248	http://www.nii.ac.jp/sparc/publications/annual/

IDをキーに、データをつなぎあわせていくことが可能に

「書誌作成機能」と「書誌利用機能」の分離

↓ 作業軽減
↑ 価値向上

作成データ ≠ 利用データ



機械処理を前提としたフラットでシンプルな構造の書誌を作成し、名寄技術等
他システムとの相互運用を積極的にはかりながら、リッチな書誌を提供する

目次

- はじめに
- NACSIS-CAT検討作業部会とは
 - 概要
 - これからの学術情報システムの方向と課題
 - 課題
- NACSIS-CAT/ILL再構築の必要性
 - なぜ再構築が必要なのか？
 - 外部データベースとの相互運用性を強化
 - 電子情報資源への適切な対応のための資源
(人的資源, システム資源, 経費を含む)の確保
 - NACSIS-ILLを含む「書誌利用 (検索) 機能」の強化
 - 図書館システムへの影響と対応
- 今後に向けて

電子情報資源への適切な対応のための資源
(人的資源, システム資源, 経費を含む)の確保

↓作業軽減
↑価値向上

= 印刷体の管理コストを下げるということ

1. 書誌作成作業負担の軽減

- a) 外部機関作成書誌データの活用
- b) 典拠レコードリンク形成作業の自動化
- c) 自動所蔵登録対応機能の強化

2. 書誌管理作業負担の軽減

- a) 「書誌作成機能」と「書誌利用（検索）機能」の分離
- b) レコード調整の廃止

外部機関作成書誌データの活用

↓作業軽減

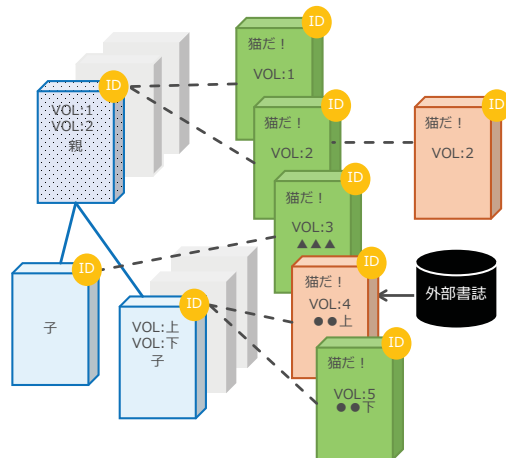
外部機関作成書誌データを流用手続きなく直接
NACSIS-CAT書誌データとして活用すること
で、書誌作成の作業効率が向上

直近5年間の書誌作成数：1,573,253件

ISBNあり	774,461	49.2%	コピーカタログिंग (事前登録書誌)
ISBNなし・流用元なし オリジナル	640,286	40.7%	従来どおり
ISBNなし・流用元あり	158,506	10.1%	コピーカタログिंग (事前登録書誌)

出版物物理単位での書誌作成

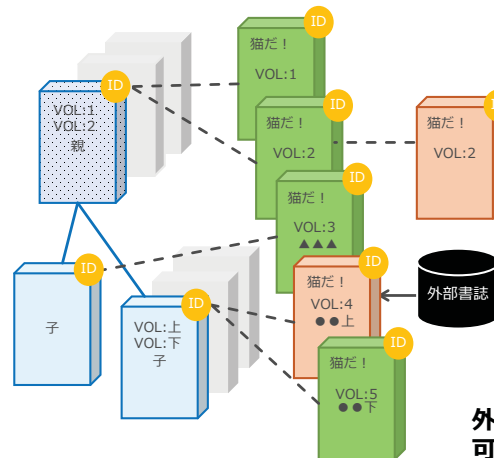
↓作業軽減
↑価値向上



- 新基準適用後に作成する書誌データ
 - 出版物物理単位を原則として、VOLグループの繰り返しを禁止
 - 和漢古書など一部の書誌データは例外的に許可
- 現行基準で作成済みの書誌データ
 - 適宜的な出版物物理単位への分割は実施しない
 - 既存書誌データへのVOLグループの追加を禁止
 - 和漢古書など一部の書誌データは例外的に許可
 - 新基準適用後も既存書誌データへの所蔵登録は可能

書誌構造リンクの見直し

↓作業軽減
↑価値向上



- 書誌構造リンク形成作業の任意化
 - 従来の親書誌データに相当するタイトル及び責任表示、親書誌データに対する番号等、中位の書誌単位のタイトル及び責任表示、構造の種類等を書誌データに記述
 - 親書誌データの新規作成及びリンク形成作業は現行の必須レベルから任意レベルに変更
- 書誌構造リンク形成機能の維持
 - 現行の検索環境を保証するため、手動によるリンク形成機能を提供

外部機関作成書誌の直接利用を
可能にするだけでなく、
所蔵自動登録の効率（精度）も向上

出版物理単位の外部機関作成書誌データの活用

↓作業軽減

現在

軽量化・合理化後

- | | | |
|--|---|-----------------------------------|
| 1) コピーカタロギング
+ 手動所蔵登録 | → | コピーカタロギング
+ 自動所蔵登録 |
| 2) コピーカタロギング
+ 自動所蔵登録 | → | (従来どおり) |
| 3) オリジナルカタロギング
(参照MARC流用)
+ 手動所蔵登録 | → | コピーカタロギング
(事前登録書誌)
+ 自動所蔵登録 |
| 4) オリジナルカタロギング
(オリジナル)
+ 手動所蔵登録 | → | (従来どおり) |

目次

1. はじめに
2. NACSIS-CAT検討作業部会とは
 - 1) 概要
 - 2) これからの学術情報システムの方向と課題
 - 3) 課題
3. NACSIS-CAT/ILL再構築の必要性
 - 1) なぜ再構築が必要なのか？
 - 2) 外部データベースとの相互運用性を強化
 - 3) 電子情報資源への適切な対応のための資源
(人的資源, システム資源, 経費を含む)の確保
 - 4) NACSIS-ILLを含む「書誌利用(検索)機能」の強化
 - 5) 図書館システムへの影響と対応
4. 今後に向けて

レコード調整の廃止

↓作業軽減

- レコード調整の廃止および「修正作業の区分」*の見直し
- 並立書誌データ, 重複書誌データの再定義
- 重複書誌データの統合

並立書誌データ

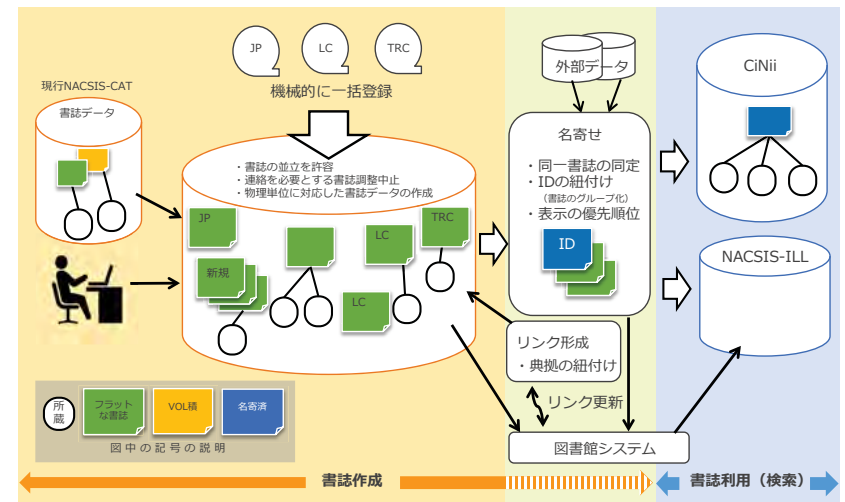
同一資料に対する複数書誌データ。
由来の相違のほか、現行基準において作成館に問い合わせを必要とする書誌事項の相違などにより存在が許容される。

重複書誌データ

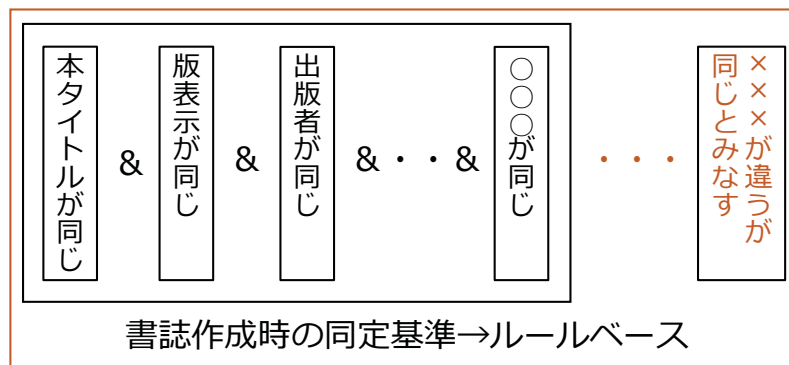
書誌の同定に必要な項目が全く同一の書誌データ。統合対象となる。

*現行の「修正作業の区分」(コーディングマニュアル 第21章 図書書誌レコード修正 21.1.1.b 修正事項一覧)

新基準適用後の概念図



名寄せの仕組み



書誌利用時の同定基準 = 名寄せ基準

書誌利用時に、書誌作成時の同定基準以外の条件を追加すれば、論理的にその条件は名寄せ条件となる。

NACSIS-ILLを含む「書誌利用機能」の強化

平成29年度以降に検討

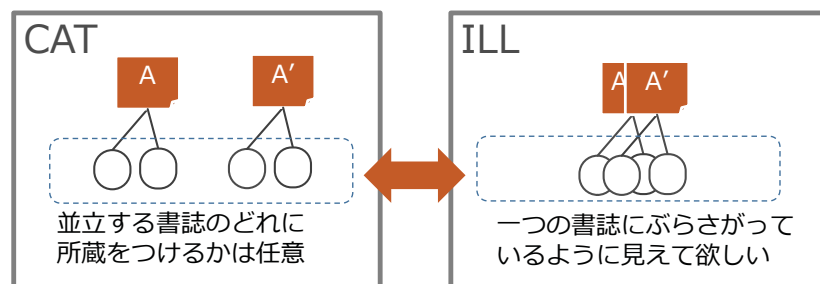
- NACSIS-ILL
 - 書誌検索時に並立書誌データを名寄せ書誌データとして提供
 - 名寄せ後の書誌データのそれぞれの所蔵情報も一括して提供
 - VOLフィールドの巻号部分を検索や絞り込みの対象とする
 - 所蔵なし書誌データは検索及び表示の対象としない
- CiNii Books
 - 書誌検索時に並立書誌データを名寄せ書誌データとして提供
 - 名寄せ前のNCIDによって検索した場合でも、名寄せ後の書誌情報を表示

→ソフトランディング

NACSIS-ILLを含む「書誌利用機能」の強化

平成29年度以降に検討

- 書誌利用時には、同一資料の所蔵は、並立する書誌の所蔵が一覧できて欲しい（所蔵が並立書誌に分散している状態は、依頼館選択の作業効率が著しく落ちる）。
- しかし、必要に応じて、元の書誌も参照したい。



目次

1. はじめに
2. NACSIS-CAT検討作業部会とは
 - 1) 概要
 - 2) これからの学術情報システムの方向と課題（再掲）
 - 3) 課題（再掲）
3. NACSIS-CAT/ILL再構築の必要性
 - 1) なぜ再構築が必要なのか？
 - 2) 外部データベースとの相互運用性を強化
 - 3) 電子情報資源への適切な対応のための資源（人的資源、システム資源、経費を含む）の確保
 - 4) NACSIS-ILLを含む「書誌利用（検索）機能」の強化
 - 5) 図書館システムへの影響と対応
4. 今後に向けて

図書館システムへの影響と対応

- 通信プロトコル
 - 各図書館システムとの通信プロトコルは、CATPを維持
 - スキーマバージョンの追加は実施するが、既存のスキーマバージョンも維持
- 書誌作成業務
 - 現行の図書館システムの書誌作成機能での対応を想定
 - 書誌構造のフラット化に伴う書誌入力方針の変更は、入力ルールの変更により対応
- 書誌構造リンク
 - 現行の図書館システムと同様の親書誌データへの手動リンクを維持するが、親書誌データへのリンク形成は必須としない

図書館システムへの影響と対応

- 名寄せ書誌の利用
 - ILLでは名寄せ後の書誌及び所蔵を提供
 - 当面は現行の図書館システムのILLクライアントでの対応を前提とするため、書誌作成システムとは別に、現行のILLクライアントでの業務用に、名寄せ処理済み書誌のデータベースを用意する等の措置を講ずる
- 接続サーバの切り替え
 - 書誌作成業務とILL業務で接続先サーバの切替が必要となる場合は、参加館・図書館システムベンダーと仕様について検討

ここまでのまとめ

平成27年(2015) 10月27日	NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について (基本方針案の要点)
平成28年(2016) 3月25日	NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について (基本方針) (案)
平成28年(2016) 6月29日	NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について (基本方針)
平成29年(2017) 2月8日	NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について (実施方針)
平成30年(2018) X月XX日	書誌作成単位の新基準 (ガイドライン) の提案

目次

1. はじめに
2. NACSIS-CAT検討作業部会とは
 - 1) 概要
 - 2) これからの学術情報システムの方向と課題 (再掲)
 - 3) 課題 (再掲)
3. NACSIS-CAT/ILL再構築の必要性
 - 1) なぜ再構築が必要なのか?
 - 2) 外部データベースとの相互運用性を強化
 - 3) 電子情報資源への適切な対応のための資源
(人的資源, システム資源, 経費を含む) の確保
 - 4) NACSIS-ILLを含む「書誌利用 (検索) 機能」の強化
 - 5) 図書館システムへの影響と対応
4. 今後に向けて

今後に向けて

- 外部機関作成書誌データ導入にともなう見直し
 - 所蔵がない書誌データの許容
 - 異なる目録規則に準拠して作成された書誌データの許容
- 新規作成時に適用する目録規則の移行（RDA, 新NCR）
- 「目録情報の基準」やコーディングマニュアル等の見直し
- 書誌データ等の入力のためのガイドラインの整備
- 研修体制の整備

今後に向けて

CAT2020は通過点

- NACSIS-CAT/ILLの在り方
- 大学図書館の業務の在り方
- 図書館システムの在り方
- 外部とのさらなる連携

 **一緒に考えていきましょう！**

2020年